

Mr. Bassman (ベースマン列伝) vol.64

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Peter Ind 【ピーター・インド】

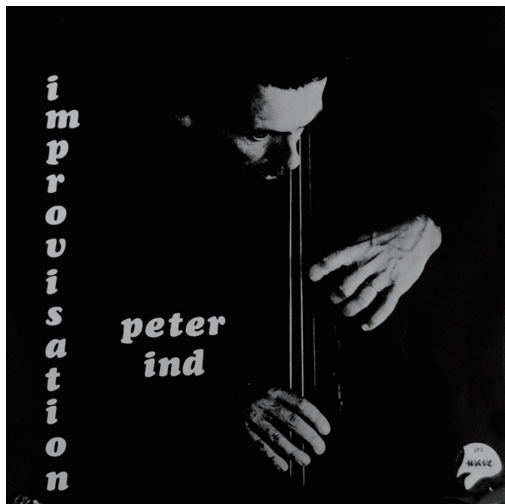


Photo : Peter Ind "Improvisation" (Wave)

Profile

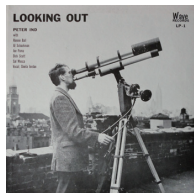
1928年7月20日、英国ミドルエセックス州オックスブリッジ生まれ。8歳の時にヴァイオリンを始め、14歳の時にピアノを弾き始める。44年からロンドンのトリニティカレッジで音楽を学ぶ。19歳の頃にベースに転向し、ティム・ベルに師事。この頃からプロ活動を開始。地元のクラブで活動後、49年にジョー・セイ・トリオに参加。トミー・サンブソン・バンドで活動後、同年大西洋横断船クイーン・メリー号で演奏しながら、51年に渡米。NYでレニー・トリスターノに師事。54年にニューポート・ジャズ・フェスティバルに初出演。50年代はリー・コニッツ、ロイ・エルドリッジ、パティ・リッチ等と共演。また、自身のスタジオを作り、レコーディングを行なう。61年にリーダー作品『ルッキング・アウト』を発表。その後一次英国に戻るが、63年に再び米国に渡り、リー・コニッツやウォーン・マーシュとツアーに出る。66年に英国に帰国し、フィル・シーメン・カルテットに参加。67年には自主レーベル「Wave」を立ち上げた。70年代以降はフリーランスとして活動し、自身のセクステットなども結成。80年代から90年代にはロンドンで開店した自身のジャズ・クラブ「ベース・クレフ」と「テナー・クレフ」で成功を収める。2000年以降も様々なグループで活動。92歳を迎えた現在も母国英国で暮らしている。

正にアーティストと呼べる多才な名ベースマン

ピーターは1928年7月20日生まれ、本誌由来のベースマン＝ロイ・ヴィネガーは1928年7月13日生まれで、1週間違いでこの世に誕生した。元タピアニストだったピーターは1947年にベースに転向。1949年に大西洋横断船上で演奏しながら渡米。録音技師としても活躍し、1967年に自主レーベル「Wave」を立ち上げたのは有名な話。他にも絵画を学び、ロイヤル・アカデミーで個展を開き、中国製磁器の修復作業も行った。1980年代にはロンドンにジャズ・クラブ「ベース・クレフ」と「テナー・クレフ」を開店して成功させた。これまで「Jazz Visions - Lennie Tristano and His Legacy」「The Environment and Cosmic Metabolism - Looking at the Stars and Thinking about the Earth」「Painting the Energy of Nature」の3冊の書籍も執筆。哲学者のような佇まいも独特で、正にアーティストと呼べる名ベースマン。

PI's Great Albums

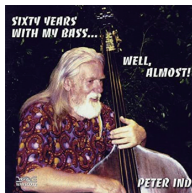
カップリング作品を入れて9枚のリーダー作品の他、サイドマンとして、リー・コニッツの作品での好演やポール・ブレイ、ユタ・ヒップの作品での演奏も聴いて欲しい。



ルッキング・アウト ピーター・インド

(WAVE : WAVECD-22) [Import CD]

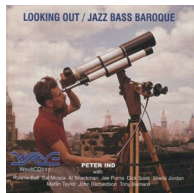
ピーターの自主レーベル「Wave」から発表された記念すべき第1弾アルバム。1957~1961年録音の8曲を収録。シーラ・ジョーダンも参加。



シックスティ・イヤーズ・ウィズ・マイ・ベース・ウエル、オール・アモスト! ピーター・インド

(WAVE : WAVECD-22) [Import CD]

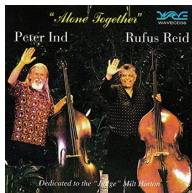
ピーターが自身の音楽活動歴60周年を記念して編集したアルバム。1965年のソロ音源、2003年のベルギーでのライブ音源を中心に収録。



ルッキング・アウト/ジャズ・ベース・バロック ピーター・インド

(WAVE : WAVECD-111) [Import CD]

1957~1961年に録音されたアルバム『ルッキング・アウト』と1987年に録音されたアルバム『ジャズ・ベース・バロック』のカップリング作品。



アローン・トゥゲザー

ピーター・インド&ルーフラス・リード

(WAVE : WAVECD-36) [Import CD]

ピーターとルーフラス・リードの2人のベースマンが、当時90歳の大御所&大先輩のベースマン、ミルト・ヒントンに捧げた渾身のデュオ作品。